

かつての暮らしを物語ってくれたのは、建物や道具たち。
歴史に思いをめぐらせながら歩く楽しさを満喫しました。

つきだて

月館 地区

残っていた土蔵は、かつての月館の隆盛を物語るもの。養蚕、煙草、畜産など、移り変わってきた農業の歴史を教えてくれる道具や建物もありました。町並みや風景には地域の歴史が眠っていることを、歩き、たずね、話をうかがって、教えられた月館地区の活動でした。

遠くからでも見える
月館地区のランドマーク

1-4 ひのみやぐら 火の見櫓 最近、ほとんど見られなくなったものですが、この町に残っているのはすばらしいと思います。町中で昭和30年から40年頃に使われた物を移築したものです。今は使われていませんが、町の大切なランドマークです。
(月館字町地内)



趣のある建物が
いくつも残っていた

1-1 どぞう はな 土蔵と花 「ヤマイ チヌリヤ」という屋号の家の土蔵で、道路側に建てられています。もとは味噌醤油屋でした。屋根は新しくなっていますが、壁は白い漆喰のまま。季節の花がよくマッチしています。2階の扉が左右対称に開いているのが重厚に見えます。(月館字町地内)



1-3 ようふう げんかん 洋風玄関 いかにも町の医院という雰囲気のある建物で、両開きの玄関がとても良い感じです。内科・小児科の菅野医院で、昭和27年頃に建築されました。
(月館字町地内)



1-2 まるもん 信用金庫 丸い門

の向かい側にある町の老舗で、屋号は「ヤマキチヌリヤ」。呉服屋さんです。この門は、主に家人や使用人が出入したもののと思われます。石造りのアーチ型の入り口は、当時としては豪華だったそうです。(月館字町地内)



1-7 いしむろ 石室

石積みの立派な造りがすばらしいです。場所は月館に18代続く屋号「菅新」さんのお宅で、できたのは昭和20年代だそうです。養蚕の時期には桑がしおれないように貯蔵し、冬季は穀物などを入れて使用していました。今の冷蔵庫ですね。(月館字町地内)



農作業の知恵と工夫いろいろ

1-10 たけ きぎょう こや 竹の作業小屋

自慢の手作りの作業小屋(休み場)で、40年から50年は使用できるとのことです。ほとんど竹できており、釘は使われていません。土台に工夫がしてあり、下部には雨除けのトタンが巻いてありま



す。竹の用途は色々ですが、これだけ大きな小屋を作ったのはすばらしいと思います。(月館字川越地内)



1-15 イノシシよけ

イノシシの進入を防ぐための囲いで、町道のすぐ上にあります。この付近までイノシシが出没するものと思われますが、規模が大きいので、中の作物が何なのか気になります。(月館字古語老内地内)



なつかしいモノから昔の暮らしが見えてくる

1-11 かんばん 看板

今はあまり見られなくなったトタン製の懐かしい看板です。張ってある土壁も古い感じで良いですね。いかにも地方の古い商店といった感じで、マニアにはたまらないのではないのでしょうか。(月館字館ノ腰地内)



1-19 しょうゆ い 醤油入れ

山形県最上地方の醤油入力で、銘柄が記されているので高級醤油だったと思います。量り売りに使用されたのではないのでしょうか。1升(1.8リットル)は入りそうです。今では珍しいので、大事に保管したいということです。(月館字細布地内)



1-26 みんか ゆうびん 民家と郵便ポスト

明治の前半まで栄えた塩問屋だった家で、今は18代目です。郵便ポストが入口にあり、地区の重要な役割を担っています。昔懐かしい巡査立寄所の看板もあり、問屋の趣が今も残っています。(月館字古田地内)



養蚕、酪農、煙草…暮らしを支えた生業の名残りを見つけた

1-17 はかり 秤 主に軽量物を量る時に使用された秤で、写真上は15キロ、下は4キロくらい量れます。菅野さん宅にあるもので、蚕の繭の重さを量っていました。平成8年頃まで養蚕に使用していたそうです。今では重さの単位も変わりましたが、養蚕の盛んだった町内にはまだ沢山あると思います。(月館字古屋ノ入地内)



1-18 さんれん 三連サイロ 牛の餌を貯蔵したもので、冬期間食べる分を確保するために作ったサイロです。右のサイロの上部には「1962.9.1」(昭和37年)と文字が入っているのが見えます。左のサイロには「39.9.3」、まん中のサイロには「37.9.1」とありました。この地域では、主に乳牛が飼われていました。(月館字古屋ノ入地内)



月館を見守るような七つの山を眺める

1-13 なな もり ふづけい セツ森の風景 月館字宮前あたりからは、セツ森がほぼ一望できてすばらしい眺めです。近くの中学校校庭からのながめも大変良いです。季節の移り変わりが広範囲に見渡せます。田んぼのあぜ道に咲く彼岸花が美しいところです。(月館字宮前地内)

1-27 もんびょう 門標 民家の玄関上に貼ってあります。昔は煙草栽培をしている家には、みなこの門標を飾っていました。6個2種類の形がありますから、長年耕作していたのでしょう。この地区は煙草の栽培が盛んだったようです。(月館字古谷地地内)



1-23 かなむろ 金室 地区の人の話によると、子供の頃は中に入って遊んだそうです。カナムロと呼んでいたようで、鉱山だったのでしょうか。鉱物が採れたかどうかはわかりません。奥行きが25メートルくらいあり、だんだん狭くなるそうです。手で掘ったのなら、すごいことです。(月館字イラ地内)



「月館の七石」をたどる

1-8 えぼし いし 烏帽子石 急斜面に大きな石が二つ突出しています。大きい石の方が、昔のかぶりものの「烏帽子(えぼし)」に似ているところから「烏帽子石」といわれ、「月館の七石」のひとつです。以前は山の斜面でしたが、コンクリートで固められたときに石だけが残されたものです。〈月館の七石とは、烏帽子石、たたみ石、ふくろ石、呼ばり石、口あけ石、つつみ石、力石〉(月館字川越地内)



1-24 よ 呼ばり石 三拍子への道と峠への道の分岐点にあります。呼び掛けるとこだまが返ってくるので、こう名付けられました。地元の人たちは、「呼ばり石の下の方…」と言って、今も道しるべとして使っています。南北朝の頃に、大坂の戦から戻った武士の手渡八郎が、行方知れずの妻子の名前を呼びながらこの石の上で亡くなった、という悲話が残されています。(月館字峠入口)

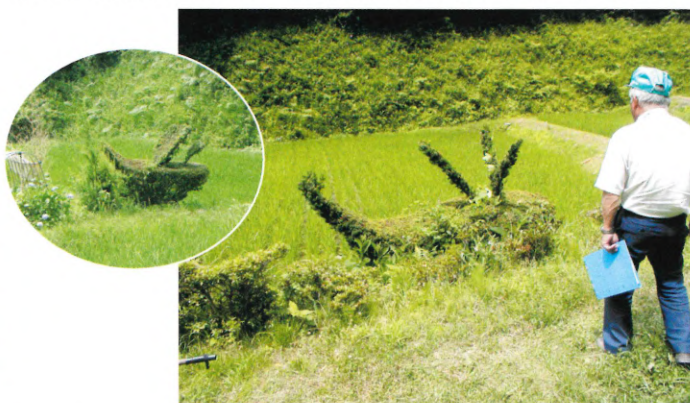


樹木を愛で、花を楽しむ暮らしぶり

1-21 緑の文化財桜 平成12年に、町の緑の文化財に指定されました。地区の人々は年数回、草刈りや肥料やりなどをして管理しています。樹齢300年以上の太い桜で、世話をしている人たちは、毎年ここで花見をしています。(月館字古屋ノ入地内)



1-9 キャラの木 樹齢25年のキャラの木で、潮を吹く鯨の形にカットしてあるのが面白いです。この田んぼに沿って、ほかに帆掛け船の形に刈り込んだものもありました。おちゃめな遊び心が楽しいと思います。(月館字酒香ノ入地内)



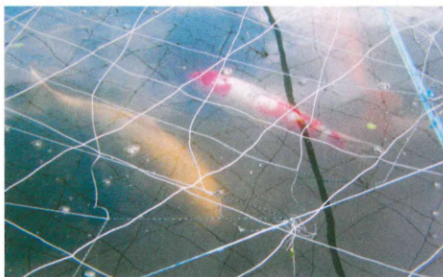
1-22 あさがお 朝顔 防火水槽のフェンスに咲いた朝顔。季節限定で花々が咲きみだれます。道路のすぐ脇にあるので、チョット立ち止まって見るといいでしょう。癒されますよ。(月館字野竹内地内)



1-30 クマガイ草 今は山野草ブームですが、月館にもクマガイ草の群生地がありました。北向き斜面の木陰ですが、有名になると荒れるので、そっとしておいてほしいと思います。山の中にひっそりと咲いていてほしいです。(月館字相葎地内)



1-31 にしきごい 錦鯉 月館町では、ここだけと思われる鯉の養殖場です。池の中には大小合わせて60匹から70匹くらいが気持ちよさそうに泳いでいました。網でおおわれているのはイタチやゴイサギにおそわれないためだそうです。とめどない清流を利用しているため、色とりどりの鯉は大変きれいです。(月館字相葎地内)



いまでも大切に続けられている神社の祭り

1-6 しんめいじんじや 神明神社の初午祭り 神明神社の春祭りは、2月の初午の日です。前夜に、神社所蔵のお稲荷様を氏子の戸毎に配り、お泊めします。祭り当日に、お稲荷様を神社にお返しして火難厄除の祈願をするのです。全国的にも珍しい行事だと思いますので、後世まで受け継いでほしいです。神明神社には、お稲荷様のほか出雲大社の分霊が祀っています。(月館字町地内)



1-5 ちの輪くぐり 7月30日は神明神社の夏祭りです。参拝者は茅萱(ちがや)で作った大きな輪を8の字にくぐります。また、厄除の紙形を納めますが、この祭りは別名「人形祭り」ともいい、紅白の紙人形に名前を書き、その人形をなでて、川に流すと厄除けになるのです。県内には数カ所同じような厄除け祭りが残っているようですが、ちの輪の製作者は年々減っているそうです。青年会員10人が担当しています。(月館字町地内)



1-12 さんようじんじや 蚕養神社 会津若松市の蚕養神社の御分霊を祀ってある神社で、例年旧3月17日に近い日曜日に例祭があります。昔は繭玉を奉納しましたが、今は養蚕農家がほとんどないので見られません。ごちそうをいただいた後には一句を奉じたようで、俳句の額も奉納されています。養蚕は途絶えてしまいましたが、祭りは残してほしいと思います。(月館字梶内地内)



伊勢神宮より移築された門

1-14 赤城神社の門 上州赤城山より勧請され、現在の地に月見館の守護神として祀られました。写真の門は、昭和48年に伊勢神宮の外玉垣門を改築した折に譲り受けたものです。こうしたことは全国的にも大変珍しく、ここを参拝することは伊勢神宮を参拝するのと同じだそうです。(月館字宮前地内)



願いをかなえてくれた大黒様と観音様

1-16 走り大黒様 とある家に伝わる掛軸で、相当古いものです。主に行方不明者を探すために用いられたそうです。この家からお借りして、逆さに吊るし供物を供えます。そのように祈願すると、数日で見つかった事もあったといい、最近まで借りる人がいたということです。(月館字細布地内)



1-20 小さい観音様 細布地内に伝わる小さな観世音で、240年から250年前の明和の年号の記述があります。お産が軽くなるようにと、近郷近在の産婦がお借りして、枕元に置いて祈願した観音様です。高さ3.5センチくらいで、両開きの筒の中に入っています。着物の切れ端などに包んで返すので、布がどんどんふくらんでしまいました。昭和に入って、この家が火事になったとき、観音様は借り出されて、無事だったそうです。誰が借りたかは絶対に口外しないのだそうですが、口込みで広がり遠くからも借りにきたそうです。(月館字細布地内)



小さな塚には悲しい物語があった

1-25 九人塚 行屋入の山腹にある塚です。南北朝の時代、南朝方だった霊山城の奥方やお姫様たちが落ちのびる途中で道を誤り、9人がこのあたりで力尽きて死んだといひます。整地されたので、碑は元の場所から移されているそうですが、南天や彼岸花が悲しい雰囲気をもたせていました。(月館字行屋入地内)



書かれた文字から見てくる願い

1-29 薬師如来堂 国道399号線の古谷地の道路のすぐ上にあります。今から350年ほど前に、豊臣家の残党だった高橋帯刀が護持したお堂だそうで、目の病気には目、耳の病気には耳、という文字を年齢の数だけ書いて祈願すると良いと言われています。堂内には、目や耳のほかに、足や嫁という字まであって、おもしろいです。(月館字古谷地地内)



1-28 石のテーブル 薬師如来のそばにあります。道路工事の時に発見して、現在の位置に運んでもらったそうです。直径1メートルくらいあり、表面が平らでテーブルとして十分活用できます。自然に平らなのは珍しいです。(月館字古谷地地内)



特集 月館

土蔵の残る町並み

残っていた土蔵は、文字どおり町としてにぎわったところ。

梁川と川俣を結ぶ川俣街道は、かつては絹の道として、おおぜいの人が行き交いました。

名残りの土蔵が、かつての隆盛を物語っています。



① 月見橋

美しい名前のこの橋は広瀬川に架かり、先の道は布川から相馬へと通じています。この三叉路に町がつくられていきました。

② 月館町道路元標

地元学活動の中で見つかった「月館町道路元標」。長く行方が知れなかったものです。歩けばこそ発見でした。



③ 酒屋さんの蔵

橋のたもとにあります。2階の壁には「菊の庭」「國光」の文字。コテで仕上げた左官屋さんの仕事です。



⑤ なまこ壁の土蔵

腰に立派ななまこ壁をほどこした「ヤマチヌリヤ」の土蔵。白しっくい壁、大きな瓦とあいまって、町の隆盛を物語ります。「土蔵と花」(18ページ)の南に並んでいます。



⑦ 土壁に障子

土の壁の上には、障子の窓。よく似合います。路地を入れば、土の堀がまわり、古木が揺れていました。



バスの停留所にも「町」の一字。町の人にはあたり前でも、よそから来た人の興味をそそることでしょう。



⑧ 石室の上の作業小屋

「石室」(19ページ)の「菅新」さんのお宅は、敷地の奥に向かって土地が傾斜し、裏から眺めると、石室を巧みに利用して小屋が建てられているのがわかります。もと、お蚕さんを飼ったものでしょうか。土蔵も高くそびえています。



④ 黒い土蔵

「丸い門」(19ページ)の右に並ぶ「ヤマチヌリヤ」の土蔵。白しっくい壁の土蔵を黒く塗ったもの。戦時中に、空襲に備えたものかもしれません。



⑥ 土の風合い

年月を経て、白しっくい壁が落ちてしまったのでしょうか。小さいながらも、扉の厚さなどに、かつての堂々とした姿が想像できます。



⑨ 使われてきた土蔵

2階の扉は分厚く、防火に備えたもの。1階部分には手が入られ、店舗として活用されています。